



▲講師の説明を受けて
1本1本生ける児童たち

豪華なフラワーアレンジメントが完成！

東部小で「花の教室」開催

2月12日東部小にて「花の教室」が行われ、6年生48人がフラワーアレンジメントの体験をしました。佐賀県花づくり推進協議会が、体験を通じて子どもたちに花に対する興味や理解を深めてもらおうと開いたものです。

教室では、佐賀花商組合青年部員4人が講師として指導。講師の説明を聞いて、バラやカーネーション、スイートピーなど8種類の花を吸水スポンジに挿し、豪華なフラワーアレンジメントを完成させました。

児童たちは、「先生方がやさしく教えてくれてわかりやすかった。おうちの人への素敵なプレゼントとして作ることができました」とお礼を言いました。

樋口さん夫妻 佐賀農業賞 優秀賞を受賞！

甘い香りの「さがほのか」栽培夢膨らむ

意欲的に技術や経営の改善に取り組み、地域農業の振興に貢献している農業者に贈られる平成24年度「佐賀農業賞」先進的農業経営者の部で樋口誠さん・英美さん夫妻（東多久町）が優秀賞を受賞しました。

樋口さんは、米・麦・大豆とイチゴ（さがほのか）の複合経営に取り組まれています。今回の受賞に「昨年4月に父から経営移譲をしての受賞だけに今後ますます頑張っていこうと、気持ちを新たにしました。将来は6次産業をめざし、子どもたちと協力して50歳までに、自分たちの作ったものを売る店をもつのが夢」と話す樋口さんは、イチゴを生かした加工品づくりと販売に向かって夢を膨らませています。



▲1月30日の佐賀農業賞受賞式での
樋口誠さん・英美さん夫妻

西多久町で伝統行事の花煎り

2/15

西多久町のくど造り民家『川打家』（国重要文化財指定）で花煎りが行われ、『幡船の里』船津忠伸会長はじめ、会員ら6人が参加しました。

花煎りは、お釈迦様の命日（15日）に合わせて行う伝統行事で、釜でもち米のモミを炒ると、だんだんとモミがはじけて花が咲いたような白い実の形に変化。モミは、湿らせたしばの枝などに貼り付け、お釈迦様が亡くなったときに咲いたと言われる「沙羅双樹」の花に見立てて仏前に供えて無病息災を祈ります。



女性と男性、共に高める防災力

2/10

多久市男女共同参画フォーラム『あなたと私の防災力』が、多久市社会福祉会館で行われました。佐賀県レクリエーション協会の江口英子事務局長による講演では、「性別に関係なく一人ひとりができることをし、コミュニケーションで地域の絆を密にして」と、より良い人間関係で防災力を高めることを呼びかけました。また、多久消防署による消火訓練とAED講習もあり、参加者は、力のない人が消火器を使う時のコツを質問するなど、積極的に学んでいました。

